

慶応三年四月十四日より慶応三年四月十六日まで

P8310674right

第十二時を過ぐ図書同行也、明後日公使は(一行六人)敦賀行、サトウ別老人は東帰の旨申聞る十四日酉 晴

詰所出勤、賀老両客老英仏へ告別として御出に付、本行寺へ御出迎、余は外御用にて引残り英館

御談中後半へ出席すつる也、賀州本夕御帰京成る、英館よりサトウ来り公使より贈り品(メリノス

一卷天鷲絨(*3)一箱)

持来不在に托し不面、御用状(地所規則書を蘭並孝(*2)等へ達せし御用也)宅状並英館より托し書状など差立る(六ヶ日限り也)サトウ

を江州別兩人に旅宿へ招き享応す、(申上は上也)、但州は来会す、余は養事のため欠席す十五日戌 晴

小侯(伊勢)より別国人奈良立入差支の儀云々、文通届く、詰所へ早め出勤、小侯への右返書並同人

組へ書状とも差出す、小侯は上京の趣故乗物にて京地へ遣す、(惣名代)此の謝として英館へ行き且サトウへ但馬と共に

P8310674left

加茂川染老疋遣す、第七時頃仏公使一行立払の報あり、英公使一行は第八時敦賀へ出立サトウ別老人は同時陸路江府へ出立、亜館より本夕老岐守殿初役に一同昼食の案内有し

其段

御同人初夫に通達す、英公使より加州へ贈り品(メリノス一卷)預り帰る、午前一旦帰舎す今朝サトウ来り名刺

を置いて去りし旨、亜館老岐守殿御昼食招待御越に付、役々一同随従本十二時前帰舎十六日亥 晴

英人奈良行差延の義、京地客老より老岐守殿へ御文通有し江州へ御談有し旨云々申来る

詰所出勤

前文奈良行の義に付英館へ両度行きアストンへ引合明日は先□差延る老岐守殿御旅邸へは但馬守参上建白す、御同人より京地への急御用状但馬守へ御渡し同人より届越す即時

乗□を□愉□

差立る時に黄昏に近く(源)十郎を□敷(申付る)米田(桂)より袴借受に来る、兼役(*2)により貸し遣す

*1:孝(ぼく)、孝漏生・プロイセン国(現ドイツ北部とポーランド西部を領有)

*2:兼役 前からの約束

*3:天鷲絨(ヒロード)暗い青緑色の織物

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。